

「令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について」

【浩養小学校】

令和4年4月19日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本市の小学校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「理科」「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
算数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	B
理科	学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、「A物質・エネルギー」、「B生命・地球」の二つの内容区分からバランスよく出題	A

☆ 全国平均正答率との比較について

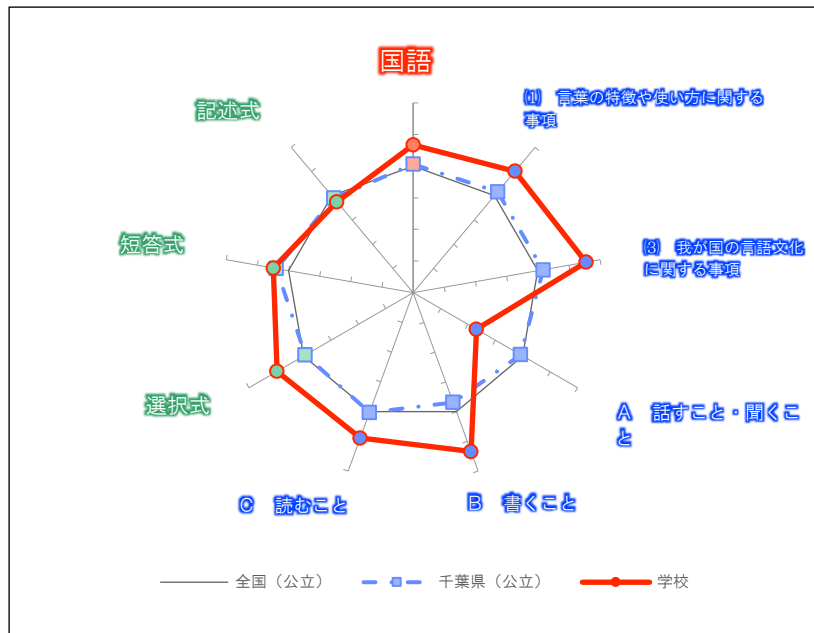
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



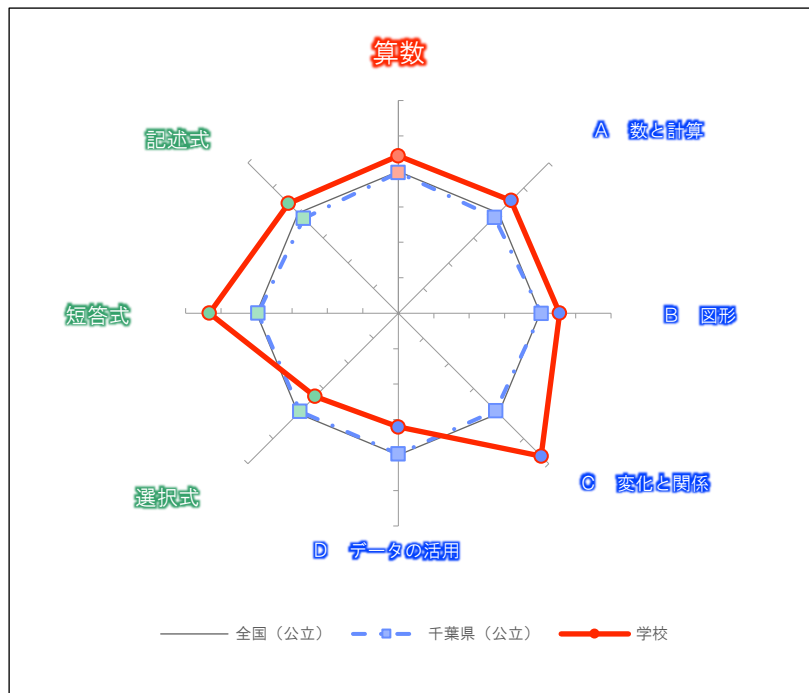
【特徴と現状】

- 国語科全体の正答率は、全国・県平均共に上回っており、全国よりも約4%高いです。平成31年度と令和3年度の結果が全国平均より下回っていたことを考えると、正答率が伸びています。
- 「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」と「(2) 我が国の言語文化に関する事項」の正答率が高く、話し言葉と書き言葉の違いを理解しています。
- 漢字を正しく文の中で使うことができ、文字の大きさや配列に注意して書くことができています。
- 「A 話すこと・聞くこと」に関しては、正答率が約9%低いです。必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることに課題があります。
- 文章全体の構成や書き表しなどに着目して、文や文章を整えることができています。
- 問題形式では、記述式が約1%とやや下回るものの、他は平均を超えています。

【改善方策等】

- 「話すこと・聞くこと」に関しては、目的や意図に応じて資料を選択し、相手に分かりやすく伝える場を多く設定するなど、改善を図ります。また、他教科や、全校集会などでも発表の場を設定します。さらに、国語科の授業においてもタブレットを活用していきます。
- 下学年では、読み聞かせに積極的に取り組むことで聞く力を伸ばしていきます。「話すこと・聞くこと」を意識して、朝の会などでスピーチを取り入れます。また、テーマを明確にすることで、聞く視点を意識して話したり聞いたりすることができるようにします。そして、一方通行ではなく、感想や質問の時間も確保していきます。
- 朝の帯時間を活用し、漢字の読み書きや音読や視写などを繰り返し行うことで、基礎学力の向上を図ります。

算 数



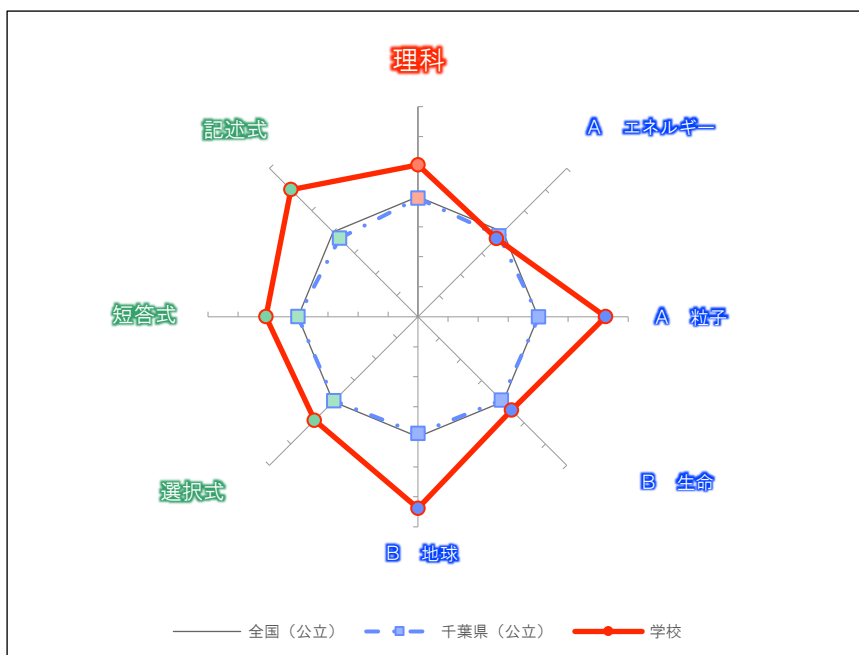
【特徴と現状】

- 算数科全体の正答率は、昨年度に続き、全国・県平均共に上回っており、全国よりも約3%高い結果となりました。
- 「データの活用」が5%ほど下回っていますが、他は上回っています。
- 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え、考察することに課題があります。
- 問題形式では、選択式が3%ほど下回っていますが、短答式は10%上回っています。
- 選択式（問題文を正しく読み取って何を問われているか考えて解答を選択する問題形式）では、思考力が問われます。問題文を最後まで読み込み、何を問われているか考えて答えを導くことに課題があります。
- 領域の「変化と関係」では、全国の正答率より約9%高く、割合について、よく理解しています。
- 問題形式の「短答式」では、全国の正答率より約10%上回っています。

【改善方策等】

- 「データの活用」については、算数科の授業において、目的に応じて表やグラフを読み取ったりデータの特徴を捉えて活用したりするような学習の場を設定していきます。また、算数新聞や社会などの他教科でもデータの取り扱いや解釈について適宜指導することで、特徴を捉えられるようにします。
- 算数科の授業では、学習問題やまとめを自分の言葉で書くことで、思考力を深められるように、学校で統一して研修を行い、取り組んでいきます。また、講師による模擬授業参観などの研修を行うことで、授業改善を行っていきます。
- 朝の帯時間を活用し、計算（100マス計算等）など基礎学力の向上を図ります。

理 科



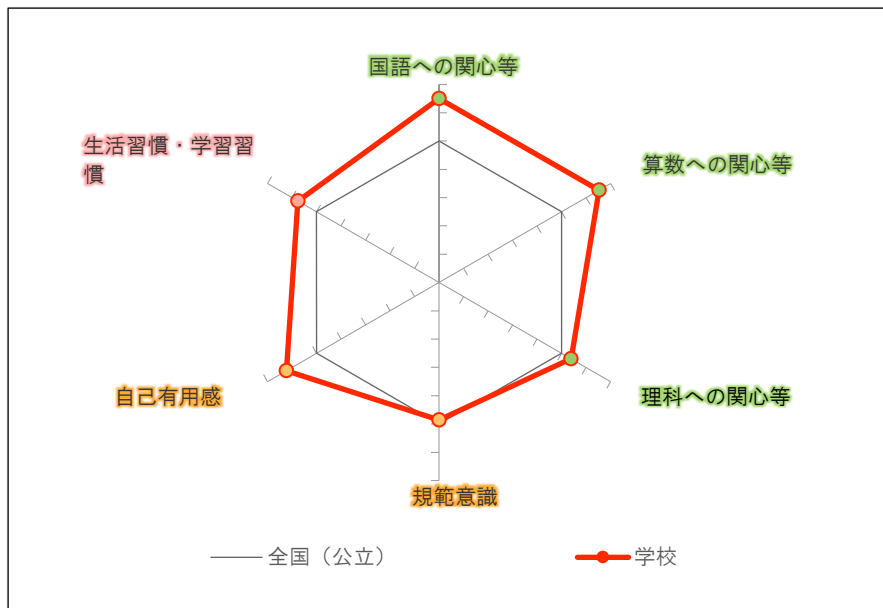
【特徴と現状】

- 今回実施した教科の中で、もっとも正答率が高いです。全国平均よりも約7%も上回っています。
- 「A 粒子」と「B 地球」では、正答率がどちらも全国平均よりも10%を上回っていました。3年生からの学習が身に付いており、問題を理解し自分の考えをもつことができていた結果と考えられます。また、無解答が少なく、自分の考えを書くこともできていました。
- 唯一、正答率が約2%下回ったのが、「A エネルギー」でした。実験の方法を検討して改善し、自分の考えをもつことが課題でした。
- 問題形式では、どれも正答率を上回り、特に記述式が約9%も高く、最も上回っていました。
- 理科の学習を好きと感じている割合は、約90%と高い結果がでています。楽しく学習に取り組めたことが、正答率を上げた理由の一つと考えられます。

【改善方策等】

- 全国よりも高い正答率が継続するように、意欲的に取り組むことができるような指導方法を、職員間で共有していきます。
- 理科の授業において、観察や実験などの過程や、そこから得られた結果を適切に記録していきます。そして、興味・関心を持続しながら、基本的な知識・技能が身に付けることができるように学習指導の過程を職員で共有します。
- 国語科・算数科と同様に、理科の学習が必要だと思えるように生活で役立つ場面で、適宜指導し関心を高めていきます。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 児童質問紙調査によると、規範意識を除き、全国の値を上回っています。特に、昨年度より自己有用感の数値が上がっています。学校行事などが少しずつ復活し、児童が活躍する場面が増え、友達と協力することが楽しいと思えていることや、先生に良いところを認められていると感じている児童が多いことも自己肯定感が高まったと要因と考えられます。
- コロナ禍で地域の行事への参加が少ないようですが、少しずつ再開されてきたことで参加しているとう回答が増えてきました。
- 朝ご飯は毎日全員が食べていますが、早寝・早起きに課題が見られました。動画視聴やゲームなど、時間の使い方に課題があるようです。
- 全体的に新聞や本を読む機会や時間が少ないようです。休み時間など、委員会や行事などの準備などに追われていたことも原因と考えられます。

3 まとめ

- 学校においては、全国学力・学習状況調査の結果から現状を把握し、職員間で共有していきます。課題から考えられる改善方策に取り組むことで、児童の課題の克服を図っていきます。
- 帯時間で、100マス計算や視写や音読等に継続的に取り組み、基礎学力の向上を図っていきます。また、認知機能を高めるための学習も行い、個に応じた取り組みも行います。
- 継続した学びができるように、「思考し表現する力」を高める実践プログラム（千葉県で授業改善の推進を図るために考えられた授業のモデルプログラム）に基づいた授業の展開、ノートの取り方、授業規律などの充実を図り、学校として統一して授業改善にも取り組んでいきます。
- ICT機器の効果的な活用のための研修などを実施し、児童がタブレットを文房具のように使いこなせるように努めていきます。
- 学校司書と連携し、今後も読書活動の推進に努めていきます。
- 行事や放課後子ども教室などPTAによる御支援・御協力も引き続きお願いします。
- 携帯やタブレットなどの使用方法や時間など、御家庭でのルール作りに御協力をお願いします。